

(様式)

令和7年度「SDGsの実現に向けた教育推進事業」取組内容

川島町立川島中学校

1 育成する能力

- ①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的、総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する態度 ⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度

2 研究概要

(1) 取り組むSDGsの目標

第1学年：			第2学年：			
第3学年：						

(2) 研究主題

世界にはばたく人財が育つSDGsの実現に向けた教育の在り方

(3) 研究仮説

現在、世界中において、これまでに経験したことのない多くの課題に直面している。予測困難な時代を生き抜くためには、一人一人が様々な課題を自分事として捉え、向き合い、解決する力を備えられることが求められる。これまでの学校教育の成果を生かしながら、SDGsの視点を入れた取組を実施する。取組を通して、7つの能力と態度を育成し、困難な時代を生き抜く力を備えた児童生徒が育成できるのではないかと考える。また、川島町で、価値づけの統一を図ることで、誰一人取り残さない教育を実現することができるのではないかと考える。

3 企業・団体との連携

(1) 連携・協働した企業・団体

- 【教職員】・2030SDGs 公認ファシリテーター
【1学年】・県立川島ひばりが丘特別支援学校
【2学年】・かわじま郷土資料展示室・川島町教育委員会・川島町役場・川島町町内19事業所
【3学年】・教職員共済生活協同組合・丸木美術館・埼玉県環境学習応援隊環境総合研究所
・ピースキャラバン

(2) 連携・協働した主な内容

- 【教職員】・校内研修
【1学年】・福祉体験学習・特別支援学校との交流会
【2学年】・郷土学習・防災学習・社会体験チャレンジ
【3学年】・環境学習・平和学習

4 研究内容

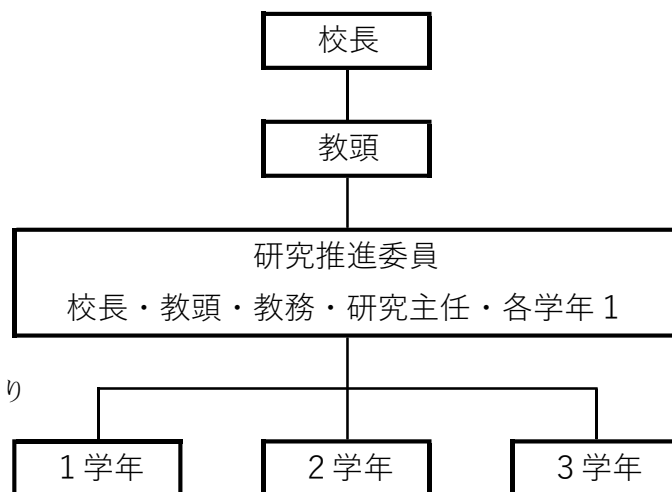
(1) 研究組織

右図参照。

(2) 研究方法

学習指導要領では、これからの学校には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」となることができるようにすることが求められている。そこで、学校と社会が連携しながら、主体的に考えることができる人材を育成することを目指した教育の実践は必須である。また、SDGsの実現に向けて、地域における課題解決を図るために児童生徒は、学習の基礎となる問題発見・解決能力を身に付ける必要がある。そのためには、NPO法人や民間企業との連携をより一層深めていかなければならないと考えた。そこで、本校では川島町が持つ教育力を駆使し、各学年で以下の研究を進めることとした。

- ・川島町教育委員会や民間企業と連携し、充実した体験活動の展開
- ・環境学習応援隊の方を講師として招聘し、深い学びとなるよう出前授業を実施
- ・学びを自分の言葉でまとめ、発表することを通じた、SDGsに対するさらなる理解



5 成果と課題

○ 児童生徒の声や変容

- ・「見方と考え方の方向性を変えれば、不要物も資源になると考えることができる」という項目では、肯定的な回答が74%から94%に増加した。このことから視点を変えて考える力を身に付け、SDGsの理念を自分事として捉えられるようになったと示唆される。

○ 学校全体の変容や先生方の声

- ・ESDカレンダーを作成したことで、資質・能力を基盤として視点を共有し、日々の授業にとどまらず、学校行事や特別活動など学校生活全体を通して、生徒にどのような資質・能力を育成したいのかを明確にしながら教育活動を進めることができた。その結果、個々の活動が単発的な取組に終わることなく、年間を通じた系統性・一貫性のある指導につながり、生徒自身も学びの目的や成長の方向性を意識しながら主体的に活動に取り組む姿が見られるようになった。

○ 連携した企業・団体の声

- ・中学生を対象に話をできることは貴重な機会なので、大変ありがたい。

○ 今後の課題

- ・アンケート結果から良い変化をしているものの緩やかであることから今後の学習活動の工夫や教員の支援を通して、より主体的に考えを深める力を育てることが必要である。